

I. 目標を立てる (将来像のイメージ)

～メインターゲットを医薬品・医療機器とし、彩都バイオグランドデザインが目標とした「10年後(2018年)に北大阪バイオクラスターを中核とした大阪を“世界第5位”に」を目指して～

II. 強みを活かす

- ・世界トップクラスの大学等研究機関の集積を活かした革新的研究の推進
 - ・「先端医療開発特区(スーパー特区)」の推進(基盤研、阪大、国循)
 - ・ナショナルプロジェクトの獲得等による研究資金の確保(全団体)
 - ・知的クラスター創成事業の推進(千里LF、府)
 - ・研究のための施設、設備の確保に向けた働きかけ(全団体)
- ◎ヒトiPS細胞の提供(基盤研)
- ・製薬企業の集積を活かした先端医薬品開発の推進
 - ・製薬企業とバイオベンチャーのアライアンス機会の創出(千里LF)
 - ・「創薬・基盤技術アライアンス・ネットワーク」によるアライアンス支援(大商)
 - ・「知的クラスター創成事業」による大学等研究機関の研究情報の製薬企業への提供(千里LF)
- ・ものづくり中小企業の集積を活かした医療機器開発等、異業種参入の促進
 - ・「次世代医療システム産業化フォーラム」等による医療関係者ニーズのものづくり企業への橋渡し(大商)
 - ・多様な企業の保有技術の掘り起こし及びマッチング促進(大商、府)
- ・創薬・医療機器等の産業化に向けた先進的取組みを活かした更なる成功事例の創出
 - ・「バイオビジネス・コンペ JAPAN」実施による有力バイオベンチャーの創出(大薬協、大商、府、千里LF)
 - ・「創薬・基盤技術アライアンス・ネットワーク」によるアライアンス支援(大商)
- ・産学官連携の強みを活かした事業の展開
 - ・共同研究、共同開発、技術移転等のための産学マッチング事業の実施(全団体)
 - ・産学連携のためのコーディネーター人材確保(大商、阪大、府大、千里LF)
- ◎国の「産学官連携拠点形成支援事業」や21年度補正予算施策の採択に向けた取組み(全団体)
 - ・大学等研究機関と製薬企業との産学連携・共同研究促進(大薬協、大商、阪大、府、府大)
- ・関西圏の広域的ポテンシャルを活かした情報発信力、国際連携の強化
 - ・関西バイオ推進会議を母体とする国内外との連携事業の展開やMOU締結(大商)
 - ・WEBサイト「BIO-BRIDGE KANSAI」(関西バイオ推進会議)による海外への企業情報等の発信強化(大商)
- ◎タンパク質連携プロジェクト「プロテイン・モール関西」の発足・運営(府)

III. 課題を解決する

- ・バイオベンチャーの創出・育成の促進
 - ・バイオベンチャーの創出、支援方策の検討と実施(全団体)
 - ⇒人材、資金、経営、研究など多岐にわたるため、別途分科会等で検討
 - ・彩都ライフサイエンスパーク内への「彩都デスク」設置(府)
- ・バイオベンチャーへの投資拡大、IPO(株式新規公開・上場)促進等に向けた取組みの推進
 - ◎大阪ならではのバイオファンドの組成(大薬協、大商、府、近経局)
 - ・オール大阪でのバイオベンチャーの成長支援(全団体)
 - ・エンジェル税制の拡充やベンチャー支援税制の創設などベンチャー育成に向けた税制に対する国への要望(大商)
 - ・株式会社産業革新機構の活用等検討(大薬協、大商、府、近経局)
- ・治験・承認審査等の円滑化、迅速化
 - ◎先進的な医薬品、医療機器の開発に係る産業界、研究機関の規制改革等の要望をとりまとめ、国に要望(大薬協、大商、府)
 - ・構造改革特区了承事項の実施方策早期決定に向けた国への働きかけ(大薬協、府)
 - ・府独自の規制改革(軽微変更手続きに対応するGMP調査)の実施(府)
- ・治験ネットワークの構築
 - ・治験・臨床研究に対応できる人材の育成(府)
 - ・治験に関する情報提供、普及啓発(府)
 - ・専門人材による治験に関する一元的な相談窓口の整備(府)
- ◎府立病院機構5病院、基幹的医療機関(阪大附属病院、国立循環器病センター、国立病院機構大阪医療センター、府立病院機構)による治験促進に向けた検討(府)

IV. 成長を促す

- ・国内での企業間連携の促進
 - ・共同研究、共同開発、販路開拓、技術移転等のための企業間マッチングの推進(大商、千里LF)
 - ◎「創薬・基盤技術アライアンス・ネットワーク」によるアライアンス支援(大商)
 - ◎「プロテイン・モール関西」の運営による連携促進(府)
- ・グローバル展開を支援するための海外クラスターとの連携強化
 - ・海外国際見本市への出展等による海外企業等とのアライアンス促進(全団体)
 - ・国際治験ネットワークの構築(大薬協、大商、府)
 - ◎「次世代医療システム産業化フォーラム」のグローバル展開による革新的医療機器の開発(大商)
 - ・「産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)」の実施(阪大)

V. 環境を整える

- ・情報発信(ブランド力)の強化
 - ・クラスター内ポテンシャルとインパクトのある情報の継続的な発信(大商、府、近経局)
 - ・「北大阪バイオクラスター」(WEBサイト)の充実(府)
 - ・国際見本市等への出展における情報発信の工夫・強化(全団体)
 - ・大阪バイオ戦略推進会議メンバーによるトップセールスの実施(全団体)
- ・人材の育成・確保
 - ・大学等研究機関の若手研究者等を対象とした企業実務に関するプログラム等の実施(知財等)(阪大、府大、千里LF)
 - ◎民間事業者の活用等による製薬企業OB等の人材プール及びマッチング事業等の検討(大薬協、府)
- ・インキュベーション施設等のインフラ整備
 - ・新たなインキュベーション施設、ミドルステージのベンチャー向け施設の開設に向けた取組み(府、近経局)
 - ・彩都における治験薬製造施設等の共同利用施設の整備によるバイオベンチャー等への支援(府)
 - ・大学や研究機関所有機器の共用利用(開放)推進(基盤研)
- ・彩都の立地企業受け皿エリア拡充(彩都中部地区計画の推進)
 - ◎彩都中部地区について、施行主体、地権者等の関係者と連携し、ライフサイエンス分野を含むイノベーション的な企業の集積拠点として、平成25年度中のまちはらきを目指す(府)

VI. 到達度を測る 各構成団体の実施状況を「大阪バイオ戦略推進会議」で検証

- ①アクションの達成指標：主要テーマについてはロードマップを作成。(分科会や関係機関において協議・検討)
- ②クラスターとしての発展指標：バイオ企業数、生産高、雇用者数、バイオベンチャー数、IPOベンチャー数、研究者数、パイプライン数 の7項目をフォロー

●「大阪バイオ戦略推進会議」の構成10団体<50音順>：(独)医薬基盤研究所、大阪医薬品協会、大阪商工会議所、国立大学法人大阪大学、(財)大阪バイオイノベーション研究所、大阪府、(各項目の()内は主な推進団体・五十音順) 公立大学法人大阪府立大学、近畿経済産業局、国立循環器病センター、(財)千里ライフサイエンス振興財団